

今年の芸文祭テーマは

「わたしの『好き』をお伝えします」

都留高ニュース

発行所
山梨県立
都留高等学校
大月市
大月2丁目11-20
編集
都留高校新聞同好会

取材・広告
希望の方は
新聞同好会
(木内)まで

11月6日に芸文祭 グランドステージ開催



いよいよ芸文祭が近づいてきました。そこで、芸文祭の文化部での発表や審査を前に新聞同好会がそれぞれの部にアンケートを取りました。各部の個性あふれる回答をぜひご覧ください。
(写真は昨年のグランドステージの様子)

芸文祭って何？

芸文祭とは、文化部にとっての総体の様なもの。11月を中心に文化部各部での部門発表や審査が行われます。そのうち11月6日(木)にYCC県民文化ホールで行われるのがグランドステージで、式典を中心とする第1部と専門部が持ち回りで行う交流ステージの第2部からなります。

また、グランドステージに先だって、各校チアリーディング部と各校吹奏楽部のみなさんが甲府市内をパレードします。

(写真はパレード過去の様子)



- ① 普段の活動内容を教えてください
- ② 部活動を四文字熟語で表すと？
- ③ 芸文祭、もしくは次の発表に向けての決意を教えてください
- ☆吹奏楽部
- 1、本番に向けて個人練習や合奏を行っています。
 - 2、十人十色
 - 3、私たちにしかできない演奏ができるように頑張りたいです。
- ☆美術部
- 1、各自で自由に作品を製作しています。デッサンや油絵、水彩、立体作品、イラスト等、部員によって様々です。作品展や大会に出す作品を描いている人も多いです。
 - 2、十人十色
 - 3、自分の作りたい作品が満足いく形で制作できるように、芸文祭や高美連展まで一杯がんばりたいです。
- ☆茶道部
- 1、活動日は木曜日と金曜日の週2日。活動内容は、お点前の一連の所作を練習し、道具の扱いを身につけるための練習を行っています。
 - 2、切磋琢磨
 - 3、これまで練習してきた成果を出し切れるように、部員一丸となって精一杯取り組んでいきたいと思っています。
- ☆書道部
- 1、パフォーマンス前以外は毎週火曜日に活動しています。書道を習っている人が多いので、各自のペースで取り組んでいます。

- 2、桜梅桃李
 - 3、それぞれ納得のいく作品を創り上げられるようにがんばります！
- ☆合唱部
- 1、コンクールや学校行事に向けた練習やより良い声を出すための発声の仕方、各パートのバランスを聞きながら歌うなどしています。
 - 2、個性爆発
 - 3、3年生が引退されて、自分たちが部活を創っていくことに好奇心や恐怖が入り交じる思いですが、精一杯頑張ります。
- ☆放送部
- 1、大会に向けての原稿作りや発声練習等を行っています。
 - 2、進取果敢
 - 3、私たち放送部は今回「アナウンス」朗読「オーディオメッセージ」の3部門に出場します。どの部門でも良い成績を出せるようがんばります！
- ☆箏曲部
- 1、パートごとに分かれ、合奏で全員が息ぴったりになることを目指して日々練習しています！
 - 2、不撓不屈
 - 3、日々の練習の成果を出し切って、悔いの残らないように頑張ります。
- ☆写真部
- 1、木曜日に写真を撮りに部活を回ったり印刷しています。学園祭や体育祭等の学校行事も撮影しています。
 - 2、百花繚乱
 - 3、今年1年生の部員がとて増えたため、様々な写真を撮る活動をしていきたいです。

- ☆軽音楽部
- 1、各バンド週1で練習しています。6月にある文化祭と1月にある文化局発表会に向けて練習しています。また、他のライブも考えています。
 - 2、一心響音
 - 3、僕たち軽音部の次のライブは文化局発表会です。学校で発表する機会が年に2回しかないのです、自分たちの思いが伝わるようなライブをしたいです。また、そこにいる全員が楽しめるようなライブにします！
- ☆囲碁将棋部
- 1、週2で活動していて、顧問の先生の指導や本を参考にしています。
 - 2、日進月歩
 - 3、これまで通り頑張ります！
- ☆自然科学部
- 1、全意を用いて魚類の感覚機能(視覚など)について研究しています。
 - 2、人気部活ですかね。
 - 3、タウマゼインを感じるような研究結果を見つけてます。
- ☆英語同好会
- 1、毎週の水曜日の昼休みにジョナサン先生と話したり、外国の動画を見てディスカッションをしたりして、英語のスピーキング力向上のための活動をしています。
 - 2、国際親善
 - 3、挨拶で簡単な英語の自己紹介などにチャレンジします！アルバル生と話したり国際的な感覚を養えるよう1・2年生共に楽しく活動が続けていきます！興味のある方は水曜日、C1Aに来てみて下さい！
- ☆ボランティア同好会
- 1、普段は各自で参加できるボランティアに参加し、学校主体となる活動は全員で参加しています。
 - 2、実践躬行
 - 3、より多くの生徒に協力してもらえように活動しています。
- ☆新聞同好会
- 1、月一で都留高ニュースの発行をしています。
 - 2、一期一会
 - 3、来年も全国大会に出場できるように頑張ります。

自学進取

◇10月に入り、推薦入試が本格化する中で、先生方と生徒が小論文指導に取り組む姿が目立つようになってきた。AIに「小論文とは何か」と尋ねると、「与えられたテーマに対し、自分の意見や主張を、論理的かつ客観的な根拠に基づいて説明する文章です」との答えが返ってくる。では、高校生にとって小論文はどれほど必要なのだろうか。◇最近刊行された渡邊雅子氏の著書『共感の論理―日本から始まる教育革命』(岩波新書)を読んだ。帯には次のような紹介文がある。「五感を働かせた体験に基づいて感情を伝え合い、共感を育む日本の国語教育は、世界から遅れた弱みではなく、AI時代こそ強みとなる。」この中で、第三章「教育のグランドデザイン」では、高校で学ぶべきことのひとつとして「小論文が挙げられている。◇同章では、「パラダイムシフトが地響きを立てて起こりつつある現代において、小論文は、その執筆を通じてポスト近代の知を概念レベルで理解できる層を育てる意義がある」と述べている。難解な表現ではあるが、小論文の意義を明確に示しており、「小論文が高等教育を受ける適性を測る大学入試で用いられることには、こうした意味がある」とも記されている。◇AIが何でも答えてくれる時代だからこそ、自分の考えを言語化し、論理的に伝える力を育む小論文指導は、ますます重要になっていくのではないだろうか。(顧)

大月駅イベントの様子

10月18日(土)の13時から15時過ぎにかけて、昨年同様に大月駅、大月市観光協会とコラボしてイベントが行われた。今回は「つる探」で探究する生徒が自ら発案し、駅や観光協会の方と話し合いを進め、当日は、合唱部、書道部、有志のバンドが参加しての開催となった。

合唱部の演奏では、校歌をはじめ、さまざまなアーティストの楽曲が披露されました。澄んだ歌声が会場に響き渡り、聴いていた人々の心を惹きつけていました。書道部では、観光客向けに書道体験を実施。普段なかなかできない



3回も発表してくれた合唱部の皆さん月

貴重な体験に、多くの観光客が参加し、会場は活気に満ちていました。軽音楽部の有志によるステージでは、1年生バンドが学園祭でも披露した曲を演奏し、2年生バンドは自作の楽曲を披露しました。最初は遠くから様子をうか



外国人の方に書道を経験してもらう書道部の皆さん

都留高前駅舎を清掃

10月10日(金)に延期された上大月駅(副駅名:都留高前駅)の駅舎清掃が環境委員および生徒会役員、先生方の約30名が参加して行われました。この行事は毎年この時期に行われ、駅舎周辺の除草やゴミ拾い等を中心に行われています。この活動に参加した2年生の環境委員の女子からは「(活動を通して)心もきれいになった気がする。みんなで協力できて良かったです。普段から使う駅なので今後もきれいに使っていきたい。(でも疲れたあ〜)」と話をしてくれた。



シリーズ都留高新聞の歴史(23)

「65年前の生徒会予算」の記事より

昭和36(1961)年6月25日の都留高新聞1面には生徒会予算決定の記事が見られる。リード文では「昭和36年度都留高生徒会の活発なうちに終わるか否かを左右する予算会議は五月三十一日の放課後三時三十分より文化局は三ノ三体育局は三ノ一の各教室で開かれ各部の激しい争奪戦の末午後八時頃ようやく妥結に至った以下はその時の状況である」(原文ママ)。小見出しでは「文化局気象部費三部で分割」「体育局剣道部二万二千円の増額」と続く。当時の部活動の構成をみると体育局は14部あり、相撲部やダンス部があるが、水泳部がない。文化局は19部あり、気象部や商業部、弁論部があるが、吹奏楽部がない。また、1面の左下には「新応援歌発表さる」という見出しで『闘魂』が創立50周年を記念して作られた記事がある。「都留高千五百」の歌詞は当時の生徒が1500人いたことの証だという。(今は500人を切っている。)



今年注目の人 新生徒会長 小野塚そらさん

今回の選挙で高い信任を受け当選した新生徒会長の小野塚そらさんにインタビューをしました。

Q、生徒会長になぜ立候補しようと思ったのですか？
—まず、生徒会に入っている



新会長の小野塚そらさん

ろんな先輩を見ていくにつれて、頑張ってる姿がカッコいいなって—もっと自分が学校に貢献できるようになっ

Q、立会演説会の感想は？
—まずは、緊張したんですけど、みんなの視線から聞いてくれるなっていうのを感じて、自分の思いをしっかりと言葉で表現することが出来て良かったです。責任者の乃葵さんも自分のよき

たら、より都留高校をよくできると思ってた立候補しました。

Q、これからの目標は？
—私はみんなの声を聞きながら学校をもっとよくしていくっていうのを自分の中のモットーにして、この都留高校をさらによりよくしていきたいと思っています。

とかを見つめるきっかけにしてくれて、沢山いいところを言ってくれたからこそ自分の自信にも繋がったなっと思ってます。

都留高校・「つる探」紹介②

つる探【都留高探究プロジェクト】の活動を紹介しています。2回目の今回は「都留高校にマスコットキャラクターを作ろう」班を紹介します。

グループリーダーの増田寿々羽さんはその目的について「都留高校の新しい魅力を作り、発信し地域や学校を盛り上げるため」と話してくれました。

今回のキャラクターデザインを作るに当たっては「都留高校の名前にも入っている鶴や大月の有名なものを取り入れたデザイン」を意識したといいます。「今後、最終アンケート行っているの皆さんにもぜひ協力していただきたい」とのことです。

(右図は候補のうちの3つ=10月24日現在)

「これまでも何度か都留高のキャラクターデザイン案が提示されたが定着には至っていない。今回は定着できるのか、成り行きを見守りたいし、そのためのプレゼンをしてもらい」とアドバイザーの先生は話しています。

